フランクフルト日本語福音キリスト教会ニュースレター

ひ ろ ば

２０１８年 夏号

2018 年教会目標聖句

「あなたがたは向きを変えて出発せよ 。」　　申命記　１章７節

この号の内容

1　教会の歩み：主にあって日進月歩～主にある出会い
（ホルツハウゼン半田知恵子姉）
2　エディンバラにおける「第 35 回ヨーロッパ・キリスト者の集い～2018 年８月２日（木）～5 日（日）」証し集

■教会の歩み：主にあって日進月歩 ～主にある出会い

ホルツハウゼン半田知恵子

光陰矢の如し、2018 年もあっという間に 8 月末を迎えました。礼拝場所移転のご用に携わってかれこれ１年が過ぎてしまい、月日の経つのが早いことに驚かされています。と同時に、2018 年の教会年間主題聖句「あなたがたは向きを変えて出発せよ。」という申命記１章７節のみことばに励まされながら、私たちの教会にふさわしい地が与えられることを日々祈っています。

今回は礼拝場所移転のための教会探しの中、韓国語教会と出会えた恵みについて皆さまにお伝えします。

韓国語教会は、会員のブリュック姉からのご提案でした。彼女の息子さんのお友達家族が通っている教会で、息子さんも教会学校に一緒に行ったことがあったそうです。早速お友達のお母様に問い合わせてくださり、担当の役員の方の連絡先をいただきました。その役員のカンさんとの交流は、私のかけた電話から始まりました。まずはドイツ人かと間違えるほどのドイツ語力に圧倒され、日本人と韓国人がドイツ語で意思の疎通をするという状況が、ここドイツに生きているから可能だということに今さらながらに気づかされました。電話で私たちの教会の現状をお伝えすると、カンさんは早速話し合いの時をもちましょうと提案してくださいました。打ち合わせの日時を決めましたが、私はあいにくその日に出席することができませんでした。そこで、何はともあれ相手を知るということは大切と、礼拝の開始時間に余裕をもって行ったところ、当時の牧師さんと現牧師のカンさんが声をかけてくださり、ドイツ語訳のイヤホンを貸してくださいました。すぐに役員のカンさんもいらして初対面の挨拶をしました。

会堂は広くて、素晴らしい音楽で満ちていました。礼拝は私たち日本人の教会とほぼ同じ形式でした。特に印象に残ったのは賛美の曲が私たちの賛美の曲のメロディーと同じであったことです。聖歌隊の皆さんの歌声も素晴らしく、主への賛美が心からされていることが伝わりました。

礼拝後、会員の中に私が１５年以上お豆腐を買っているお店の娘さんがいたので、声をかけたところ、実は彼女がカンさんの奥さんだとわかり、主の導いてくださった再会にお互い喜び合いました。お昼もご馳走になり、同席した若者たちが片言の日本語で話しかけてきてくれた時には、彼らの気配りに感謝しました。

その後、6 月 24 日の合同礼拝までの間、韓さんとは何度か電話でのやり取りをしました。その中でカンさんとの共通の祈りの課題は、私たちが会堂を借りることができれば、韓国人と日本人とのわだかまりが主への信仰によって解けるのではないか、こんな大きなチャンスはない、主の導きであれば可能になってほしいということでした。実際、6 月 24 日の合同礼拝の後には私たち教会の歴史や現状を知っていただき、主にあるお交わりもできました。結果的には、残念ながらお借りすることはできませんでしたが、韓国語教会と主にある交流の機会が与えられたことを心から感謝しています。

「これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。」
コリント人への手紙第二　5 章 18 節

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」
テサロニケ人への手紙第一　5 章 16～18 節

これからも、主にある出会いがあることに期待と感謝をします。

■ エディンバラにおける「第 35 回 ヨーロッパ・キリスト者の集い～2018 年 8 月 2 日（木）～5 日（日）」証し集

シスター・ソハラ

2006 年から始めてこの年まで、フランクフルト日本語福音キリスト教会の牧師先生たちを始め、兄弟姉妹たちのご好意と実際の助力によって、最初の 6 回は書籍のみ、そして 2012 年からは私自身が、ブックテーブルに置く書籍をたずさえ、車に同乗させていただき、参加することを許されてきました。

Darmstadt 市にあるプロテスタントの共同体、Evangelische Marienschwesternschaft のシスター・ソハラです。www.kanaan.org をクリックしていただければ、ドイツ語、英語、韓国語と日本語でもサイトをご覧いただけます。

ドイツで暮らすようになってすでに 41 年以上になりますが、恥ずかしいことにこちらへ来て初めて、日本が朝鮮半島、中国、台湾を始め、アジアの諸国、島々で行った罪悪について知り、学び始めました。2015 年にプラハで開催された集いもそうでしたが、今回の Edinburgh での集いも、かつては自分たちを長年にわたって苦しめ、現在に至るまで深い傷と痛みを与え続けてきた、憎むべき敵国であった日本人の救いのために、遠いヨーロッパの地で、多くの困難のもとで、心を尽くして仕えてくださっているパク・ジェフン牧師ご夫妻のお姿に触れさせていただいたことを、へりくだりつつ、感謝しています。台湾出身のダンカン兄弟のからだの不自由を持ちながら、終始仕えてくださった姿も忘れることができません。

うれしかったのは、私が入れていただいたスモールグループに、在日大韓教会から来られた姉妹がおられ、イエス様にある良き交わりを持たせていただいたこと、そして数分という短い出会いでしたが、中国人のご主人と日本人の妻というイギリスに住むご家族とも一度だけ、話させていただけたことです。

2018 年の集いは、飛行機で行かなければならないし、ブックテーブルの書籍の運び入れもどうしようか、と人間的な思いを抱いていた私を背中から押すようにして、たくさんの小さな奇跡をなして、今回の海を越えての集いに参加させてくださった、恵みと慈しみに満ちた優しい天のお父様に、心から感謝しています。この集いに行けて、本当に良かった、うれしかったです！！！

私たちの希望である若い世代、青年、若者たち、子供たち、赤ちゃんとご両親の姿を拝見できたことも大きな喜びです。

すでに 12 年間、私と共に歩んでくださり、助けてくださっている愛するフランクフルト日本語福音キリスト教会の皆様に心から感謝し、いよいよ本格的な準備が始まっている 2019 年のルーマニア、クルージュでの 36 回目の集いのために心から祈らせていただけることを感謝します。皆様がおられることが、私にとってどれほど大きな支えであるかわかりません。どうか主ご自身がお報いくださいますよう、最適の礼拝の場が与えられ、喜びと平安のうちに、すべての準備がなされますように。深い感謝をこめ、これからもどうぞよろしくお願いします。

▶▷

ブリュック　留理子

去年に続き、「ヨーロッパキリスト者の集い」に参加したのは二度目です。今回は 17 歳の長男も一緒だったので家族四人での参加が実現し、心から感謝しています。一年ぶりの再会、また新しい出会いも神様が準備してくださっていました。

初めて訪れたエディンバラの美しさにも感動しました。レンガ造りの建物が建ち並び、まるで中世にタイムスリップしたかと思いきや、ストリートパフォーマンス、お洒落なカフェや個性的なショップが所狭しと建ち並び、観光客で溢れる活気ある街でした。天候にも恵まれ、Calton Hill とエジンバラ城からの眺めも素晴らしかったです。

今回の集いのテーマ「キリスト者の変化と成長」に添ったメッセージから、自身のクリスチャンとしての歩みを振り返り考えさせられました。また一教会員としてのあり方、教会の成長についても学ぶことができました。セッションでは SLIM という働きについて知ることができ、結婚講座でははっと気づかされることもあり、とても役に立ちました。

講演後のスモールグループでは、信仰を持つ前と持った後の違いを分かち合い、証しもきくことができました。222 名の参加者の中から予め振り分けられたグループで、隣に座られた日本から参加された姉妹とは、なんとフランクフルトに住む共通の友人がいることも発覚し、神様の奇しきご配慮に感謝せずにはいられません。

中高科に参加していた息子達とは集いの間ほとんど話しませんでしたが、先日送って頂いたビデオの中の子供達が皆きらきら輝いているのを見て心が動かされ、主が共にいて豊かにはたらいてくださったことを確信し、喜びの涙が出ました。

日常生活から離れ、普段の少人数の礼拝からは想像もつかない大所帯で共に生きる糧を頂き、神様を賛美することに集中できた素晴らしい三日間となりました。少人数での企画準備から当日の取りまとめまで担当してくださったエジンバラ教会の皆さんに心からお礼申し上げます。

来年の集いの準備担当は、ルーマニア教会とフランクフルト日本語教会です。一人一人が与えられた賜物を最大限有効活用できますように。イエス様を頭とし、愛と喜びの中で全てが御心のままに進められますように！

▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷

What a treasure to be on the journey with our God! The most recent journey with him led me – together with my Japanese wife Ruriko and our two boys Kenji (17 yrs.) and Seiji (11 yrs.) – to Edinburgh in Scotland where we had the joy to spend three days together with more than 200 Japanese and other international Christian brothers and sisters. Three blessed days full of spending time together, sermons, lectures, workshops, singing, prayers, deep personal conversations, discussions and sharing experiences in small groups, meeting new wonderful people, meeting Christians of all ages, Scottish traditional dancing, sightseeing in Edinburgh, playing football with the boys and the elderly, having some drinks in the evening, a wonderful marriage seminar ... – and everything under the umbrella of our creator! As Jesus said, this is the food we need. What else do we need?

Are you curious and do you want to experience this on your own? Then come and join us on the next European conference of Japanese Christians in Romania! What can you expect? Many Japanese Christians and a lot of Holy Spirit! And for all non-Japanese (like myself): Most likely translations to English and German as in the past few years, small groups (in your language) to share your experiences and deepen your personal relationship with God, Jesus Christ and a lot of Holy Spirit! I am so much looking forward to meet you next year in Cluj/Romania from July 25 to July 28, 2019

– Christian Brück (51 yrs.), Frankfurt/Germany

（対訳：

クリスチャン・ブリュック

神とともに旅をするということは、なんと素晴らしいことでしょう。ごく最近の神との旅は ― 妻の留理子、二人の息子の賢治（17 歳）聖治（11 歳）とも一緒でしたが ― スコットランドのエディンバラへの旅で、そこで 200 人以上もの日本人と多国籍のクリスチャン兄弟姉妹とともに、喜びに満ち溢れた四日間を過ごすことができました。皆で共有できた祝福に満ちた四日間は、メッセージや講演、ワークショップあり、賛美と祈りあり、深い個人的な対話があり、スモールグループにおけるディスカッションや個人的体験の分かち合いがあり、新しい人々との素晴らしい出会いや全世代のクリスチャンとの出会いがあり、スコットランドの伝統的な踊りやエディンバラの観光があったり、青少年や元青少年と一緒にサッカーをする機会もあったり、夜に飲み会や素晴らしい結婚セミナー…と、すべてが創造主の守りの下で行われました。イエス様が言っておられるように、これは私たちに必要な糧です。他に何を必要とするでしょうか？

この感想文をお読みになって、興味がわいてきたり、自分も経験したいと思ったりするようになりましたか？　それなら、ぜひ来年ルーマニアで開催されるヨーロッパ・キリスト者の集いに参加してください。

あなたに何が待ち受けているでしょうか？大人数の日本人クリスチャンとゆたかな聖霊の恵みです！　私のように日本人でなく日本語がわからない人にとっても、講演やメッセージはもちろんのこと、他のものにもたいていは、ここ数年ずっと英語とドイツ語の通訳がありますし、スモールグループでは自分の母語で自分たちの経験や、神、イエス・キリストそして聖霊との深い個人的な関係を分かち合ったりすることができます。私は、ルーマニアのクルージュにおいて来年 7 月 25 日から 28 日の期間に開催されるヨーロッパ・キリスト者の集いを、今からとても楽しみにしていています。）

▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷

ビショッフ聖歌

今年のヨーロッパキリスト者の集いは、私にとっては初めて参加した集いでした。私は日本では小学校 6 年生の年ですが、集いの翌日から始まる新学期から 7 年生になるので（中学一年生）、中高科に入れてもらいました。

中高科のプログラムは、大人のプログラムからほとんど全部が切り離されて独立していました。　最初、中高科のみんなが集まった時はほとんどの子たちがお互いを知っていたので、新しく入って来た私に友達ができるか不安でしたが、みんなすごく優しくて、すぐに馴染めました。一番仲良くなったのは、ミュンヘンの日本語教会から参加していた同い年の女の子です。その子も今回初めて集いに参加していました。　集い中はお父さんやお母さんの所にほとんど行くことなく、ずっとその子と一緒に行動していました。

最初の夜は、「ナッちゃん」が（中高科では、みんなこう呼んでいました。本当の名前はナタナエルさん。日本で長い間働いていたドイツ人宣教師の息子さんで、日本語が日本人のようにものすごくよくできます～でも、ちょっと方言が入っています）が、「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」（詩篇119：105）という聖書箇所から、神様が私たちの道を照らしてくださらないと私たちは前が見えなくて迷ってしまうけれど、神様が道を照らしてくださるから迷った時も光の方に戻って行けるということを教えてくれました。

２日目の朝食の後、服部先生が「神の道を歩くとは？」という題でメッセージをしてくれました。自分の子供時代の話をして、家族に暴力をふるったお父さんのことを憎いと思う自分を神様によって変えられたことを話してくれました。そんな難しい家族関係の中で育っていても、今は神様のことをみんなに伝える牧師になった服部先生の話を聞いて、神様の力ってすごいなと感動しました。キリスト者の集いの中で一番心に残ったのが、このお話でした。その日の午後のエディンバラ市内観光では、私たち中高生は丘（後で「アーサー王の玉座」という名前がついていることがわかりました）に登りました。実際登ってみると見た目よりもずっと急な坂で、帰ってきた時はみんなヘトヘトでしたが、丘の上からエディンバラの綺麗な景色を見ることができたので、頑張って登ってよかったです。

３日目は、昼食の後に、みんなが楽しみにしていたお楽しみ会がありました。そこで、国旗クイズや写真ゲームをしました。三つのチームに分かれて、それぞれのクイズやゲームでポイントを集めていくゲームでした。どのチームも全力で頑張りましたが、私のチームは一番点数が少なく負けてしまいました。それでも私にとってはとても楽しいイベントでした。そして夜には佐々木先生が「神とともに歩む道」という題で、エジプトに売られたヨセフの話をしてくれました。希望をなくすような人生を送っていたヨセフにも神様は彼の立場をよくしてくださったように、神様は誰のことも見捨てることがないことを教えてもらいました。

最終日、中高科の聖日礼拝で、加藤先生が「みんなが十字路に立った時に、悪魔の誘惑に負けないように、みことばを武器として使って正しいイエス様への道を行くように。」と教えてくれました。私もそれができるように、みことばを貯めたいと思います。私にとってはこの四日間は楽しいことや素晴らしいことがたくさんあって、あっという間に過ぎてしまいました。キリスト者の集いが好きになりました。

▶▷

ビショップ・ウヴェ

初めてキリスト者の集いに参加しました。集いが始まる二週間前にイギリス入りして数日間ロンドンに滞在し、その後はレンタカーを借りて移動することにしました。レンタカーを借りて、まずストーンヘンジを訪れることにしました。車を走らせていくと、何もないだだっ広い野原に不思議な石の集まりが、まだ遠い所からでも見えてきました。ビジターセンターでオーディオガイドを借りて説明を聴きながら、ゆっくりと石柱群の周りを一周しました。オーディオガイドの説明によると、石柱近くにある小さな穴は葬儀のために使われたそうです。驚きました。ストーンヘンジは墓地だったのでしょうか？春分の日などの太陽の動きを測るための場所だけではなかったのでしょうか？「春＝生命の始まり」と「葬儀＝生命の終わり」は、同じ場所で行われていたということなのかと想像しました。太陽を神だと信じていた古の人も、死んでからもなお神の近くにいることを望んだのかもしれません。その見知らぬ昔の人のように、ストーンヘンジに特別な魅力を感じました。

ストーンヘンジを離れた後は、美しいコッツウォルズや湖水地方へと、イギリスの美しい景色を楽しみながら北上して行き、ついに旅の終着点エディンバラに到着しました。

集いが始まって、最初の朝食の時間。集いの会場となった大学キャンパスのカフェテリアの雰囲気は、学生時代に在籍していたケルン大学の食堂を思い出しました。空いている席に座って、隣の方に挨拶をしました。その日隣に座っていた方と、食事をしながら会話を楽しみました。その方からヘブル語の文字について興味深いことを聞きました。文字数は 24 文字だけで母音はありません。母音の代わりに子音に点をつけることによって、発音を変化させるそうです。

この小さな会話の中にも「変化」のテーマが出てきました。小さなことでも大きな出来事でも、人生に変化が伴います。突然雷が鳴り響くように神様の声を聴いてクリスチャンになった方の証を、驚きながら聴きましたが、ドイツ語によるスモールグループでも、僕と同じように妻に連れられて日本語の礼拝に参加するようになってから、子どもの時から持っていた種がやっと芽生えたという証も聞きました。変化の時は主の手にあり、適切な時にやってきます。急変化でも、時間がかかる変化でも。変わらないものは神のみことばであり、聖書は真っ直ぐな道を教えてくれます。

大英博物館にあるロゼッタストーンに書いてある三種の言語のように、人間の言葉は変わります。時代や文化も変わります。ただ周囲の変化に反応するだけではなく、成長する必要があります。スモールグループで話し合ったように、主から新しい使命が与えられたら、それに必要な能力は必ず与えられます。主が成長

するために必要な物を与えてくれます。それを信じることも信仰の一部です。
　初めてキリスト者の集いに参加しました。たくさんの人が一堂に集まって、様々な経験をした方との話ができて、印象深い集いでした。

▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷

ビショッフ桂子

　2018 年 8 月 2 日（木）から 5 日（日）までの三泊四日の日程で、スコットランドのエディンバラ郊外で第 35 回ヨーロッパ・キリスト者の集いが開催されました。私は実に約 20 年ぶりにこの集いに参加いたしました。前回まではケルン大学に在籍中で独身の立場で参加しておりましたが、今回はフランクフルトから家族とともに参加いたしました。11 歳の娘にとってはもちろんのこと、20 年前に結婚した夫にとっても、集いに参加するのは初めてのことでした。3 年前にドイツへ戻って来た後、今年の夏ついに家族で参加でき、それまでの私一人だけの昔の集いではなく、家族で共有できた集いの思い出となり感謝しています。
　20 年前の私と同じように青年会のメンバーとして参加していらした姉妹と驚きをもって再会したり、当時の私のことを覚えていてくださっていた方々ともお会いしたり、7 年前に横浜のドイツ学園に娘が通っていた時に、あるドイツ人家庭で開かれていたドイツ語による聖書の学び会をリードしてくださっていた方が、2017 年からデュッセルドルフ日本語キリスト教会に遣

わされているドイツ人牧師夫人だったことが判明したりもしました。　長い年月を経て後に、この集いで再会の場を神様は備えていてくだっていたことにも感謝いたしました。互いにイエス様につながっているからこそ可能だったと思います。
　…と、このように言えば、とても聞こえは良いのですが、実はこの集いに参加を申し込んだ際は、別の思いが私にはありました。「普段は経験できない、他の日本語教会の牧師先生のメッセージを聴きたい」とか、「今回の集いのテーマに興味がある」というような純粋な思いよりはむしろ、来年の集いを開催する主催教会の一つである、フランクフルト日本語福音キリスト教会に現在属している者としての「使命感」や「責任感」の方が先にあって、来年の集いを前にして、20 年前の記憶の中の集いの雰囲気ではなく現在の集いの様子や主催教会のスタッフの動きを見ておこうと思っていたり、開催地のエディンバラという土地に惹かれて参加を決めたことの方が強かったことを、正直に申し上げなければなりません。このように、最初は今回の集いのテーマにはどちらかというと二の次的な意識で参加していた者でしたが、そんな私にも神様は一番大切なみことばを届けてくださり、結果的に全日程に亘ってみことばに浸りながら過ごすことができました。

　今回の集いには　「キリスト者の変化と成長」というテーマが掲げられ、主題聖句にはローマ人への手紙 12 章 2 節「心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。」が選ばれていました。全日程中、開会礼拝・最終日の主日礼拝、三日分の早天祈祷会、二日分の午前中と午後の講演がありました。メインテーマである「キリスト者の変化と成長」を主軸にしつつ、ヨーロッパ各地の日本語教会の牧師先生や聖書学者の先生が、それぞれに与えられているサブテーマについて、聖書を紐解いて語ってくださいました。三日目の自由時間内に組み込まれたセッションでは、16 世紀のスコットランドにおける宗教改革者ジョン・ノックスについての学び会も企画されていましたし、三日目の賛美の夕べにおいては、一人の姉妹の身の上になしてくださった驚くばかりの神様の業の証しを聴く機会もありました。偶然にもその姉妹とはスモールグループでご一緒させていただいたので、二日に亘り個人的に主の恵みを分かち合っていただいたことを感謝しています。それらの講演やメッセージ・証しを聴いて思ったことは、その一つひとつが真珠の首飾りの一つひとつの粒のように形良くつながっていて、それぞれの先生の講演や礼拝メッセージがバトンで受け渡されていくリレーのように見事に一つにまとまっていて、とてもわかりやすいものだったということでした。神様の御業の顕れだと確信いたします。

　今回の集いの、あるメッセージで、「今回の集いのテーマに『キリスト者の変化と成長』と掲げられたのは、実は、現在のキリスト者には変化と成長がないからではないだろうか？」というような問いを投げかけた先生がいらっしゃいました。ハッとしました。その先生は続けて、「キリスト者は、洗礼を受けているから、救われているから『天国に行ける』、『もう大丈夫』なのだろうか？」「そうではなく、神様がいつでも守ってくださるから『大丈夫』な状態でいられるのだ」、「救われたままでストップしていたら、信仰はダメになる。イエス様と一緒に歩んでいかなければいけない」、「それができるように

助けてくれるのが聖霊だ」と話されました。集いの二日目と三日目の午前中にもたれたスモールグループの中でも、「祈る・聖書を読む・他のクリスチャンとの交わりをやめると、それまで培ってきた信仰 がそこでストップしてもそのまま維持できるかのように思いがちだけれど、実はその瞬間から信仰が退化してしまうのだと思う」と話された姉妹がいらっしゃいました。

「自分自身はどうだろうか？」と問いかけてみました。子ども時代から慣れ親しんでいる聖書、洗礼を受けて数十年。けれど、その「ステータス」の上にただ胡座（あぐら）をかいていただけの者ではないだろうか、クリスチャン歴が長くなっただけで中身は全然変わっていないのではないだろうか、いや、もしかしたら変わっていないという状態よりもひどく、退化してはいないだろうか…神様が示してくださったことだと思いました。キリスト者は、否、「私」は、毎日まいにち聖霊の助けによって新たにされる必要があります。

別の講演では、「悔い改める」ということは一回きりで完了する作業ではなく、原語のギリシア語では「現在進行形」の動詞が使われていて、繰り返し行うという習慣的な動作を意味していることを知りました。日々新たにされるということは、悔い改めを繰り返し捧げることによってなされるべきものだということです。それには自分から「変わりたい」・「変えよう」・「変わろう」と思う決断力や祈りが要求され、その自らの意思に神様が働きかけて変えてくださるのだということも学びました。今回の集いの主題聖句である、「心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい」というみことばの「心」に相当する原語のギリシア語は、情緒を示す「ハート」ではなく、知性を示す「マインド」の意味があることを教わり、また、「変えていただく」というよりも「自分を変える」という意味が原語にはあることも教わりました。つまり、自分は何一つ変わろうと思わずに、ある日突然神様が自分の気持ちを変えてくださるということをひたすら待つというような、受動的・他力本願的な姿勢ではなく、自らのことを含めて物事をしっかり観察し熟考し、自分の知性を変えるという能動的・自力本願的な行動が必要とされるのだということです。私も、日々「自分を新しくしてください、変わります」と願い、神様が聖霊を通して私を変え続けて、成長させてくださいますようにと祈ります。

第 36 回ヨーロッパ・キリスト者の集いへ

さて、ここからは宣伝です。　来年はいよいよ、フランクフルト日本語福音キリスト教会とルーマニアに遣わされている川井宣教師ご夫妻と現地の日本語ができるクリスチャンスタッフとで共同開催されます。日時は 2019 年 7 月 25 日（木）から 28 日（日）の三泊四日で、場所はルーマニアのトランシルヴァニア州にあるクルージュ・ナポカという大学町で、そこにあるグランドホテルで開催いたします。ヨーロッパ・キリスト者の集い史上、36 回目にして初めてルーマニアで開催することになります。実際、今年の 2 月に現地へ視察旅行をしに行きました。想像とは違い、クルージュ・ナポカの町自体はとても安全な所です。

1989 年、ベルリンの壁の崩壊がまさにその象徴であるように、東欧における共産党政権が次々に瓦解していきました。ルーマニアもその一つですが、チャウシェスク政権時代にルーマニアの教会は非常な迫害を受けました。その迫害を経て教会が経験したリバイバル、成長の歩みなど、ルーマニア人のキリスト者の証言に耳を傾け、クルージュ・ナポカの町にある教会を訪ねたりします。参加者同士による分かち合いもしながら、来年の集いのテーマ「解放された者として生きる」ということを、聖書のみことばから掘り下げていきたいと考えています。住んでいる地域が大変離れた教会が共同で企画運営いたしますので、どうぞこの集いのために祈りでお支えくださいますようお願いいたします。そして一人でも多くの方に参加していただけますよう、今からご予定に入れていただければ幸いです。

▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷

イスラエルスタディツアー2019 のご案内

2019 年 2 月 4 日から 12 日まで実施します。ガイドを当教会メンバーのバルッフエル恭仁子さん、みことばの解き明かしを矢吹博牧師がする、味わい深いスタディツアーです。

詳細は教会 Web ページをご覧ください。

▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷▶▷

〈発行日〉2018 年 8 月 26 日
〈発行〉フランクフルト日本語福音キリスト教会
Japanische Evangelische Gemeinde Frankfurt am Main
〈住所〉c/o Missionsgemeinde Frankfurt Biblische Nachstenliebe e.V.　Hungener Strasse 6C, 60389, Frankfurt am Main, Germany
〈Web〉http://jegf.jimdo.com
〈E-mail〉 frankfurtjapanischeeg@gmail.com
〈振込口座〉Frankfurter Sparkasse　(Konto Nr.200099477,　BLZ Nr.50050201,　IBAN:DE66 5005 0201 0200 0994 77)

＊本号での写真は「ヨーロッパキリスト者の集い」特設 Web ページからのものです。感謝して用いさせていただきます。